

タイトル：平成 30（2018）年度 教育セミナー（第 14 回）

日時：2018 年 9 月 13 日（木）～16 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

「私のイスラーム開眼——半世紀の東南アジア研究者歴」

中村 光男（千葉大学名誉教授）

口頭報告要旨

1. 私の半世紀に及ぶ研究者人生に関しては、配布した Wikipedia 英語版の”Mitsuo Nakamura: Cultural Anthropologist”が、とても良く纏めてくれていますので、まずそれを読み上げます。
2. プリントで、私の報告のポイント 18 点列挙いたしましたが、時間の関係で、全部をカバーすることは無理です。みなさんの方から、特に、このポイントに触れて欲しいというご希望がありますでしょうか？無い様です。私の方からポイントの 5 と 6 の「フィールド体験」と「ギャツの呪縛」、さらにポイント 14 の市民社会論を選ばせてください。
3. 現地体験「イスラーム開眼」。インドネシア中部ジャワ、ジョクジャカルタ市郊外の小さな町＝コタグデに二年間、家族とともに生活した。現地社会のアニユアル・サイクルと個人のライフ・サイクルを、フルに観察できた。「イスラーム開眼」のきっかけは、調査助手の学生たちの日常礼拝、親たちの教育熱心に感銘したことだった。また、時空の枠組みに、イスラームが浸透し、時間では、暦法、月と週、大祭、1 日の時間割まで、さらに、個人の一生、生誕、成人、結婚、葬儀まで、イスラームが枠組みとなっていることに気がついた。
4. 空間的には、王都、県都、郡都のプラン：宮廷・役所、モスク（宗教裁判所）、広場、市場、裁判所、警察・刑務所、要塞・兵營の配置まで、イスラーム抜きでは語れない。
5. ジャワ社会は、村落・部落レベルまでイスラーム化している。ギャツの言う様に、イスラーム＝「サントリ」だけで、ジャワの部分社会・文化ではない！ジャワを含めて、東南アジア多島海社会（ヌサンタラ）全体が数世紀を経て、深くイスラーム化した。1900 年段階で、オランダ政府は、全部で 100 以上のスルタン領主と条約を結んで、蘭領東インド全体を統

治していた。

6. フィールドにゆく前、ギャツの『ジャワの宗教』が唯一の参考書だった。現地を持って行って、何か分からないことがあると、必ず読む。全体、何度も読んだ。やがて、私の現地観察はギャツのと、ずいぶん違う事に気がついた。いちばん、決定的な違いは、ギャツがジャワを文明社会と見ていない事だった。文明社会とは文字のある複雑・高度な文化だ。ジャワでコーランを含め、現地社会の中で、多くの文献が生きている。これらの文献が、『ジャワの宗教』には全く出てこない。「ギャツの描写によると、ジャワ人はほとんど文盲のように、登場してくる」(ドレーウェス)。
7. 特に、Ikhlas というキーワードに関するギャツの説明には驚いた(Nakamura 1983 : 173)。ギャツは全く心理的・行動主義的説明に終始している(Geertz 1960: 73, 240-41)。これは、全くの間違いだった。さらに、『ジャワの宗教』巻頭のジャワ語の献辞の間違いも、明らかだった。だが、欧米では誰も指摘しなかった。私は、この点、サルトノ教授に試験され、合格した(Nakamura 2012:xIi)。
8. さらに、ジャワ語のイスラーム化に刮目した: 例、サレンガット = sarengat<shari`a, 他 selamatan<salam, Selamat<salam, Asngari<Ash`ari, Sopingin<Shafi`i。日常用語では perlu<fardu。
9. トピック 1 4 「イスラームと市民社会論」: 1990 年代ハンチントンの「文明の衝突」論が盛んになった。ハンチントンは、イスラームと「市民社会」は相いれないと主張した。インドネシアのムスリム知識人は、猛烈に反発した。
10. 日本では、東南アジア・ムスリム社会に関して、全くの無理解が広まっていた。特に、インドネシアの 1997-98 年経済危機と体制変化におけるイスラーム市民社会の役割には、全くの無知と誤解が蔓延していた。例: ある治安・軍事専門家の発言、「インドネシアは、暴動、略奪で、無秩序、無政府状態になっている、方向性も不明」。この様に、政府に最も近い「専門家」が、「リフォルマシ」運動に関する予備的情報なく、理解も全く持っていないことに、驚愕、憤慨し、研究者として、何とかしなければと、決心した。政変前後、政府には、現地情報の提供で協力した。さらに、JBIC の”Sovereignty Risk”調査も引き受けた。
11. その後も、東南アジア・イスラーム市民社会論の国際的活性化に努めた

(中村 1999/2001)。2012 年には、ムハマディヤーの創立 100 周年記念として、ムハマディヤー研究の国際会議を組織した。

- 1 2. さらに、「ムスリム市民社会論」の議論から実践＝市民社会同士の共同作業へ：2016 年、国際交流基金に、TAMU project「東南アジア・ムスリムの青年との交流」を提案して実現した、現在も参加している。
- 1 3. 研究者としての心構え：「一流の研究者と見做されている人の業績を読んで、読んで、読み抜け、必ず疑問や問題点が出てくる。そこを自分のデータと頭で考え抜け。人の真似をする二流研究者には、なるな！」

(終わり)